

Story-Listening and Story-Reading

ストーリー・リスニング&ストーリー・リーディング

Beniko Mason

Shitennoji University Junior College, Emerita

メイソン紅子

四天王寺大学名誉教授

Stephen Krashen

University of Southern California, Emeritus

スティーブン・クラッシュェン

南カリフォルニア大学名誉教授

言語教育における我々の目標は第二言語の自主的な習得者を育てることである。教師の助けを必要とせず、学習者が独力で成長し続ける段階にまで導くことである。言い換えれば、我々が目指すところは、学生達を在学中に完璧な第二言語使用者にすることではなく、卒業後にさらに高いレベルに達することを保証することである。本稿ではまず、言語習得について我々が知り得たことに触れ、次に我々が掲げる目標達成のためのプログラムを提示していく。以下、言語習得について我々が知るところを簡述するところから始めたい。

言語習得はどのように起こるか

過去 40 年に渡る研究で以下のことが示されている。1) 言語は聞き、読んだことが理解できた時、即ち"comprehensible input" (理解可能なインプット) を受ける時習得される、2) 学生達の言語習得を促進するには、豊かな、興味を感じ引き込まれるような大量の理解可能な言語のインプットが必要である。3) 第二言語は第一言語の場合に類似したステージを経て習得される。4) 言語習得と言語学習は同じではない、5) 言語規則の意識的学習は実際のコミュニケーションでは役立たず、文法、語彙等の筆記テストやライティングをチェックする際においてのみ役立つものである、6) 学生は言語クラスで防衛的になったり、不安を感じたり怯えたりすることがあってはならない。

Comprehension-Based Methods コンプリヘンションベースド・メソッド

我々の外国語学習プログラムでは現代の言語習得理論に基づく方法論を用いる。即ちコンプリヘンションベースド・メソッドである。ここでは学生たちに豊かな興味深く引き込まれていくような理解可能なインプットが与えられるため、学習者は母語以外の言語で聞いている、あるいは読んでいることすら“忘れる”。研究を重ねた結果、このメソッドではこれまでの伝統的な英語クラスより習得がはるかに促進され、より楽しく取り組めることが確認されている。理解可能なインプットを使ったレッスンには 2 通りの方法がある。ストーリー・リスニングとストーリー・リーディングである。以下に詳述する。

Story-Listening ストーリー・リスニング

ストーリー・リスニングから始める。我々のプログラムではまずストーリー・リスニングから始める。ストーリー・リスニングでは教師は通常おとぎ話や民話を使って語りかける。教師は

話す際、学生たちに馴染みの単語を使うが、物語には未習熟の単語や分かりづらい状況が含まれることもあり、分かりやすくするための様々なサポートが使用される。例えば黒板に絵を描く、文字で示すなどである。また学習者の母語を使用する、背景知識を利用する等も行われる。これらのサポートにより学生たちは物語の内容を容易に理解できるようになる。上述したように言語は聞き、読んだことが理解できた時にのみ習得される。

低コストである

ストーリー・リスニングは学生に費用を負担させない。ストーリー・リスニングレッスンのテキストやワークシートを購入する必要はない。著作権フリーの物語をインターネットからダウンロードする、学校図書館で本を借りるなどでよい。学生が本を借りる図書館がない場合は教師がインターネット上の著作権フリーの物語の中から適切な読みものを選びそれらを集めてクラス図書館に収めることもできる。

クラスで他に何ができるか

ストーリー・リスニングは初級段階ではプログラムのコアとなるが、上級者であってもプログラムの重要な部分となる。時折ゲームや歌、その他のアクティビティもクラスに変化を付けるために取り入れることもできるがクラス時間がすべて歌やゲームで費やされるべきではない。言語クラスで一般的に使われている歌やゲームやアクティビティは“*optimal language acquisition*”に必要とされる豊かなインプットには含まれない。

評価の問題

年齢次第では物語を聞いた後に簡単な要約を書かせることもできる。この際、絵で表現したり、母語で書くこともできる。このような要約は形成的評価や進捗レポートとして使われ、教師にとっては自分のクラスパフォーマンスのフィードバックとして役立つ。我々はこれまで習熟度が伸びるにつれ、学生達が次第にサマリーを目標言語で書くようになることを確認している。

Story-Reading ストーリー・リーディング

ストーリー・リスニングはストーリー・リーディングにつながるものである。

ストーリー・リスニングは自分で本を選べる楽しむための読書への言わば“パイプ”であり、オーセンティックな本を読みこなす力になる。ストーリー・リーディングでは徐々に緩やかに興味を引き起こす読み物が提供されていくため、目標言語による読書が分かるようになり楽しめるようになる。我々の目標は楽しむための読書の習慣を形成することであり、それは学生たちが卒業した後も継続的に目標言語を上達させ、独力で成長することを保証することである。

Guided Self-Selected Reading (GSSR)

ガイディッド・セルフセレクト・リーディング

我々はストーリー・リスニングに始まり“オーセンティック”なリーディングに至る中間地点にもう一つのステージが必要だと感じている。我々はこれを“ガイディッド・セルフセレクトィッド・リーディング(GSSR)”と呼ぶ。ここでガイド役は教師であり、学習者の習熟度や興味に合わせた読書材料を選ぶ手助けをする。GSSR では学習者は読後に簡単なレポートを書く。その内容は、何について書かれていたかや、感想や難易度である。このような情報は教師にとって、読者に適切な本を提示していくために役立つ。

1学期、あるいは2学期が過ぎれば、学生の中には”オーセンティックレベル“に達するものも現れ、その学生たちの背景知識次第では、英語を母語とする人を対象とした本にも取り組んでいけるようになる。

ところがすべての学生が順調にこのような段階に一足飛びに達するわけではない。GSSR の段階で3年の長きに渡り停滞してしまう学生もいる。とはいえ、GSSR は、これまでの伝統的な英語クラスと大きく異なる。これまでのクラスでは学生がほぼ即時に挑戦的な読み物に取り組んでいる。

GSSR の目標は完璧に自分で選んで読書ができるようになる段階にまで学習者を導くことである。一度このレベルに到達すると、教師の役割は終わり、学生達は引き続き独力で良書を楽しみながら成長していける。

Evidence エビデンス

研究により次のことが示されている。最適なインプットつまり豊かな、興味を感じ引き込まれるような理解可能なインプットが大量に、不安のないクラスで行われると、言語スキルを効果的にかつ効率よく伸ばすことができる。即ち学生たちはこれまでの伝統的なクラスの方法よりも、ひとクラスの時間内により多く習得できる。語彙獲得メソッドとして、ストーリー・リスニングの効果は繰り返し確認されてきた。同様に数多くの研究結果からプレジャー・リーディングがリーディング、ライティング、語彙、文法の能力を伸ばし、全国共通テストの成績においても効果があることが確認されている。

Easy to Set Up 設置の手軽さ

興味を感じ引き込まれるような物語本を豊かに提供することは、教師の質向上という緊急課題のための現実離れした提言よりも、英語学習を改善するための実現可能な施策となる。(Francis Mangubhai and Warwick Elley (1982) *The Role of Reading in Promoting ESL, Language Learning and Communication*, 1(2): 151-161).

英語図書館の設置は、計画し実現すればそれで終わる一度きりのプロジェクトである。何台ものコンピューターを購入した後も、新しい教材ソフトや機器の維持や入れ替え等を考える煩わしさもない。

A Comment on Distance Learning 遠隔学習について

これまで述べてきたことを孤立した状態で達成できるのだろうか。たとえば現在のコロナ禍のような場合は可能であろうか。答えはイエスである。言語習得には大量のインターアクションは必要としない。現代の科学技術は大量のインプットを簡単に手に入れることを可能にしてくれているからである。これまでの伝統的な教授法であるエラーコレクション、読解や聴解、語彙学習や会話や作文練習なども無用である。本研究を支持する既存の調査研究は以下のリンクから自由に手に入れることができる。

- <http://backseatlinguist.com/blog/> (Jeff McQuillan)
- www.sdkrashen.com (Stephen Krashen)
- <http://beniko-mason.net> (Beniko Mason)